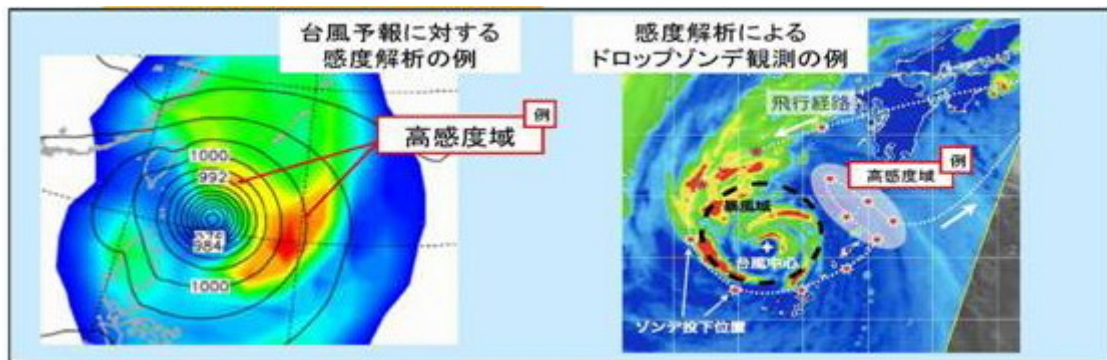
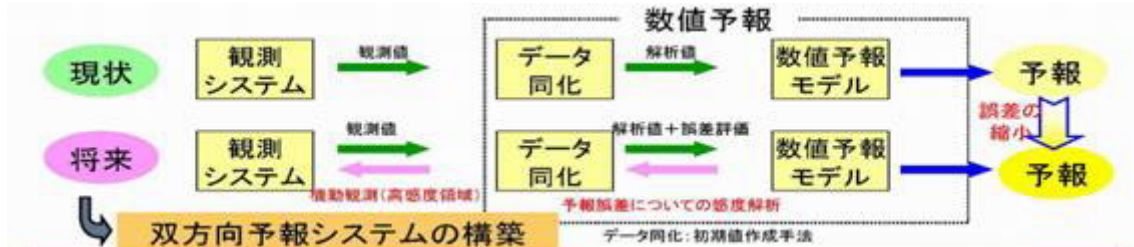


## ◆◆◆ 次世代台風予報技術の開発を目指して特別観測実験 T-PARC2008 を実施

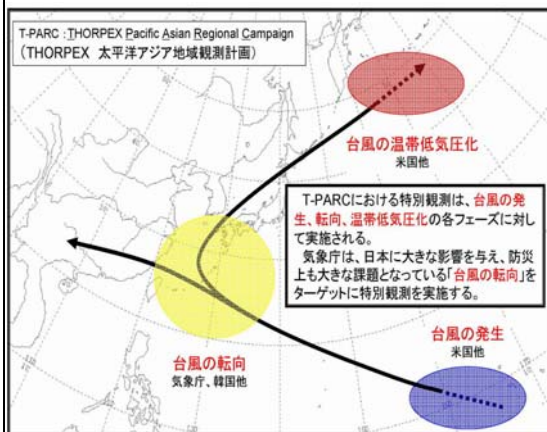
気象庁では、今夏、次世代の台風予報技術「双方向予報システム」の実用化に向けて、その有効性等を調査するために、米国、韓国などと連携し特別観測実験（T-PARC2008）を実施することを予定しています。

「双方向予報システム」とは、まず台風が発生している際にその数値予報結果を詳細に調べ、どこで集中的な観測を行うのが予報精度の向上に最も効果的かを推定し、これに沿っての集中的な観測による観測データを用いて予報を行うこれまでにない新しい手法です。

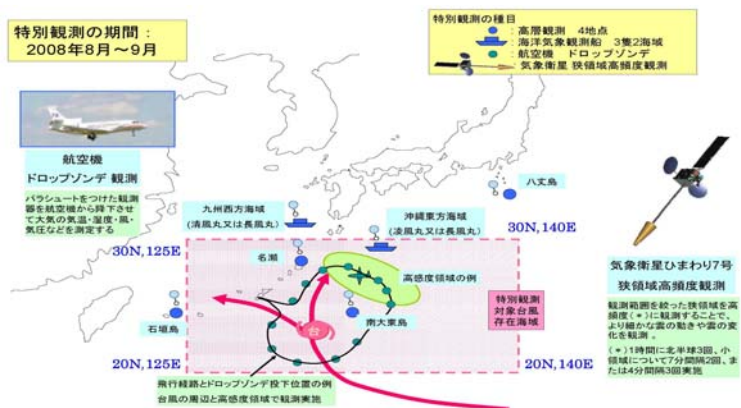


【双方向予報システム】

T-PARC は、世界気象機関（WMO）が現在 10 年計画で進めている THORPEX 国際研究計画（1 日から 2 週間先までの社会的影響が大きい大気現象の予測精度向上を促進することを目的とした観測システム研究・予測可能性実験）の一環で、米国や韓国などとの国際的共同観測実験です。



【T-PARC 特別観測の国際連携】



【気象庁が実施する特別観測概要】

気象庁は本年夏、日本の南海上に接近する台風を対象に、航空機による観測のほか、海洋気象観測船や気象台などでの高頻度の高層気象観測、気象衛星「ひまわり 7 号」を用いた高層の風の集中的な算出等、台風の発生、転向、温帯低気圧化などに係わる特別観測を実施し、「双方向予報システム」の有効性などの検証を目指すこととしています。

気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) 上の報道発表資料 (<http://www.jma.go.jp/jma/press/0805/09b/20080509.html>) より